

教科 【 数学 】

■生徒の状況

- ・全体として明るく素直で、授業への参加姿勢は良好である。計算技能の個人差によって学習意欲に差が生じやすく、難度の高い課題に対しては早期に思考を止めてしまう生徒も一部に見られる。
- ・授業内にペアワークや「教え合い」を意図的に取り入れることで、苦手意識のある生徒も周囲からヒントやサポートを得て、最後まで粘り強く課題に挑戦する姿勢が育まれつつある。

■指導における課題

- ・少人数編制の利点を最大限に生かし、生徒一人ひとりの理解度や学習課題を的確に把握した上で、基礎的な知識・技能が確実に定着する指導を展開する。
- ・発展クラスの生徒に対し、探究心を刺激する応用・発展的な問題解決場면을提示し、より高い次元での知識・技能の統合と活用力を育む。
- ・標準クラスにおける課題の多様化に対応し、学習指導員と密に連携した指導体制を敷くことで、つまずきの早期発見と一人ひとりに適したスモールステップでの技能定着を図る。

■授業革新推進に向けての具体的な方策

視点1

板橋区授業スタンダードの徹底、及び板橋区授業スタンダードSの取組

- ・数学的な見方・考え方を働かせながら、課題に対して自力で考え、考えを交流・比較し、根拠を基に説明する活動を通して理解を深める授業を展開する。
- ・習熟度や学習状況に応じて問題や課題を自己選択し、自分に合った方法やペースで学習を進める場面を設定することで、主体的に学ぶ態度を育成する。
- ・発展クラスの生徒に対し、探究心を刺激する応用・発展的な問題解決場면을提示し、より高い次元での知識・技能の統合と活用力を育む。
- ・標準クラスにおける課題の多様化に対応し、少人数学級担当教師同士が密に連携した指導体制を敷くことで、つまずきの早期発見と一人ひとりに適したスモールステップでの技能定着を図る。

視点2

ICT環境の適切な維持と活用
個別最適な学び・協働的な学びの実現

- ・一人一台端末を活用し、生徒一人ひとりの理解度や学習状況に応じた課題や支援を行う。また、「個人→グループ→個人」の学習過程を通して、自分の考えを数学的な表現で説明・共有し、多様な考え方を比較・検討することで、根拠を明確にしながら論理的に説明する力を育成する。
- ・ICTツールを用いて、事象を視覚的・空間的（イラスト・動的図形など）に表現し、視覚的なアプローチから深い理解へ導く。

視点3

総合的な学習の時間との連携

- ・数学科の学習を通して、課題を見だし、必要な情報を収集・整理・分析し、数学的な見方・考え方を働かせて課題解決を図るとともに、その成果をまとめ、説明・発表する活動を充実させ、探究的な学びの実現を図る。
- ・数学の抽象的な概念を日常生活の文脈に落とし込むことで、学ぶ価値を実感させ、生涯にわたって学びに向かう力を育てる。